

# 資 料

## 断面の主軸及び主応力面の決定方法

正員 春日屋伸昌\*

### 1. 断面の主軸の決定方法

図-1のように、共通原点をもつ2組の直交座標軸  $x, y$ ;  $\xi, \eta$  のなす角を  $\alpha$ ;

$x$  軸,  $y$  軸に関する断面二次モーメントを  $I_x, I_y$ ; 断面相乗モーメントを  $I_{xy}$  とすれば,  $\xi$  軸,  $\eta$  軸に関する断面二次モーメント  $I_\xi, I_\eta$  は,

$$\left. \begin{aligned} I_\xi &= I_x \cos^2 \alpha + I_y \sin^2 \alpha - I_{xy} \sin 2\alpha \\ I_\eta &= I_x \sin^2 \alpha + I_y \cos^2 \alpha + I_{xy} \sin 2\alpha \end{aligned} \right\}$$

$I_\xi$  が最大(最小)となるとき  $I_\eta$  が最小(最大)となるから, いま,  $I_\xi$  のみについて考え,  $0^\circ \leq \alpha < 180^\circ$  として,  $I_\xi$  が最大または最小となる  $\alpha$  を求めれば,

$$dI_\xi/d\alpha = (I_y - I_x) \sin 2\alpha - 2I_{xy} \cos 2\alpha = 0$$

より,  $\tan 2\alpha = 2I_{xy}/(I_y - I_x)$  をうる。これを満足する  $\alpha$  の値は,  $0^\circ \leq \alpha < 180^\circ$  の範囲内で2つ存在し, そのいずれで  $I_\xi$  が最大または最小となるかは, 求められた  $\alpha$  の値を  $d^2I_\xi/d\alpha^2$  に代入し, その符号によって定められる。

$$\begin{aligned} d^2I_\xi/d\alpha^2 &= 2(I_y - I_x) \cos 2\alpha + 4I_{xy} \sin 2\alpha \\ &= 2\{(I_y - I_x) + (4I_{xy}^2)/(I_y - I_x)\} \cos 2\alpha \\ &= 2\{(I_y - I_x)^2 + 4I_{xy}^2\} \cos 2\alpha / (I_y - I_x) \end{aligned}$$

$d^2I_\xi/d\alpha^2 < 0$  ならば, その  $\alpha$  の値で  $I_\xi$  は最大。

$d^2I_\xi/d\alpha^2 > 0$  ならば, その  $\alpha$  の値で  $I_\xi$  は最小。

ところで, この計算をいちいち行うのは複雑なので,  $I_x$  と  $I_y$  との大小関係, 及び  $I_{xy}$  の正負によって,  $I_\xi$  が最大及び最小となる角  $\alpha$  の範囲を求めておけば便利である。

$0^\circ \leq \alpha < 90^\circ$  の範囲内の  $\alpha$  の値で, 最大か最小かの主軸は必ず一つだけ存在するから, この主軸が最大または最小となる条件を求めればよい。

(I)  $I_x > I_y, I_{xy} > 0$

$$\tan 2\alpha = 2I_{xy}/(I_y - I_x) < 0 \quad \therefore 45^\circ < \alpha < 90^\circ$$

$$\cos 2\alpha < 0, I_y - I_x < 0 \quad \therefore d^2I_\xi/d\alpha^2 > 0, I_\xi \text{ は最小。}$$

(II)  $I_x > I_y, I_{xy} \leq 0$

$$\tan 2\alpha \geq 0 \quad \therefore 0^\circ \leq \alpha < 45^\circ$$

$$\cos 2\alpha > 0, I_y - I_x < 0 \quad \therefore d^2I_\xi/d\alpha^2 < 0, I_\xi \text{ は最大。}$$

(III)  $I_x < I_y, I_{xy} \geq 0$

$$\tan 2\alpha \geq 0 \quad \therefore 0^\circ \leq \alpha < 45^\circ$$

$$\cos 2\alpha > 0, I_y - I_x > 0 \quad \therefore d^2I_\xi/d\alpha^2 > 0, I_\xi \text{ は最小。}$$

(IV)  $I_x < I_y, I_{xy} < 0$

$$\tan 2\alpha < 0 \quad \therefore 45^\circ < \alpha < 90^\circ$$

$$\cos 2\alpha < 0, I_y - I_x > 0 \quad \therefore d^2I_\xi/d\alpha^2 < 0, I_\xi \text{ は最大。}$$

(V)  $I_x = I_y, I_{xy} \neq 0$

$$dI_\xi/d\alpha = -2I_{xy} \cos 2\alpha = 0 \text{ より, } \alpha = 45^\circ$$

従つて,  $I_{xy} > 0$  ならば,  $I_\xi$  は最小。

$I_{xy} < 0$  ならば,  $I_\xi$  は最大。

以上の結果をまとめたものが表-1 である。ここで,  $I_1, I_2$  はそれぞれ最大及び最小主断面二次モーメントを表わし,

$$I_1 = \{I_x + I_y + \sqrt{(I_x - I_y)^2 + 4I_{xy}^2}\}/2$$

$$I_2 = \{I_x + I_y - \sqrt{(I_x - I_y)^2 + 4I_{xy}^2}\}/2$$

また,  $\alpha_1, \alpha_2$  はそれぞれ最大及び最小主軸が  $x$  軸となす角である。

表-1

条 件		主断面二次モーメント	
断面二次モーメント	断面相乗モーメント	$I_1$	$I_2$
$I_x \geq I_y$	$I_{xy} > 0$	$135^\circ \leq \alpha_1 < 180^\circ$	$45^\circ \leq \alpha_2 < 90^\circ$
$I_x > I_y$	$I_{xy} \leq 0$	$0^\circ \leq \alpha_1 < 45^\circ$	$90^\circ \leq \alpha_2 < 135^\circ$
$I_x < I_y$	$I_{xy} \geq 0$	$90^\circ \leq \alpha_1 < 135^\circ$	$0^\circ \leq \alpha_2 < 45^\circ$
$I_x \leq I_y$	$I_{xy} < 0$	$45^\circ \leq \alpha_1 < 90^\circ$	$135^\circ \leq \alpha_2 < 180^\circ$

[注意]

(1) 表中の等号は, 同行のものを同時にとる。

(2)  $I_x = I_y, I_{xy} = 0$  の場合は, 明らかに  $I_1 = I_2 = I_x = I_y$  となるから表には省略してある。

**例題 1** 図-2 に示す山形鋼のO点に対する主軸の方向及び主断面二次モーメントを求めよ。

[解] 図のように  $x$  軸,  $y$  軸をとれば,

$$I_x = 0.7 \times 5.0^3/3 + 6.8 \times 0.7^3/3 = 29.9441 \text{ cm}^4$$

$$I_y = 0.7 \times 7.5^3/3 + 4.3 \times 0.7^3/3 = 98.9291 \text{ cm}^4$$

$$I_{xy} = \int_{y=0}^{y=5.0} \int_{x=0}^{x=0.7} xy \, dx \, dy + \int_{y=0}^{y=0.7} \int_{x=0.7}^{x=7.5} xy \, dx \, dy$$

$$= (0.7^2/2) \cdot (5.0^2/2) + (0.7^2/2) \cdot (7.5^2 - 0.7^2)/2$$

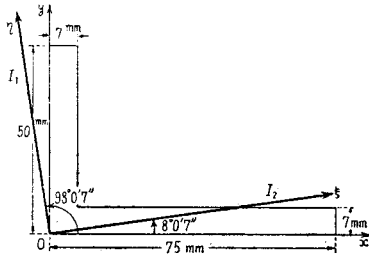
$$= 9.8931 \text{ cm}^4, \tan 2\alpha = 2 \times 9.8931 / (98.9291$$

\* 中央大学助教授, 工学部土木教室

$$-29.9441) = 0.2868189$$

$$\therefore 2\alpha = 16^\circ 0' 14'', 196^\circ 0' 14'' \therefore \alpha = 8^\circ 0' 7'', 98^\circ 0' 7''$$

図-2



さて、 $I_x < I_y$ ,  $I_{xy} > 0$  であるから、表-1 より、

$$90^\circ \leq \alpha_1 < 135^\circ, 0^\circ \leq \alpha_2 < 45^\circ$$

$$\therefore \alpha_1 = 98^\circ 0' 7'' (I_1 = 100.32 \text{ cm}^4)$$

$$\alpha_2 = 8^\circ 0' 7'' (I_2 = 28.56 \text{ cm}^4)$$

## 2. 主応力面の決定方法

弾性体内の1点Oが平面応力の釣合の状態にあると

し、図-3 のよう

に、面 AO, BO に働らく垂直応力  $\sigma_x, \sigma_y$  及び剪断応力  $\tau_{xy}$  が既知であるとして、面 AB に働らく垂直応力  $\sigma$  および剪断応力  $\tau$  は、

$$\left. \begin{aligned} \sigma &= \sigma_x \sin^2 \alpha + \sigma_y \cos^2 \alpha + \tau_{xy} \sin 2\alpha \\ \tau &= \frac{\sigma_x - \sigma_y}{2} \sin 2\alpha + \tau_{xy} \cos 2\alpha \end{aligned} \right\}$$

まず、垂直応力  $\sigma$  が最大及び最小となる平面の傾斜角を見出すには、

$$d\sigma/d\alpha = (\sigma_x - \sigma_y) \sin 2\alpha + 2\tau_{xy} \cos 2\alpha = 0$$

より、 $\tan 2\alpha = 2\tau_{xy}/(\sigma_y - \sigma_x)$  をうる。これを満足する  $\alpha$  の値は、 $-90^\circ < \alpha \leq 90^\circ$  の範囲内で2つ存在し、そのいずれで  $\sigma$  が最大または最小となるかは、求められた  $\alpha$  の値を  $d^2\sigma/d\alpha^2$  に代入し、その符号によつて定められる。

$$\begin{aligned} d^2\sigma/d\alpha^2 &= 2(\sigma_x - \sigma_y) \cos 2\alpha - 4\tau_{xy} \sin 2\alpha \\ &= 2\{(\sigma_x - \sigma_y) + (4\tau_{xy}^2)/(\sigma_x - \sigma_y)\} \cos 2\alpha \\ &= 2\{(\sigma_x - \sigma_y)^2 + 4\tau_{xy}^2\} \cos 2\alpha / (\sigma_x - \sigma_y) \end{aligned}$$

$d^2\sigma/d\alpha^2 < 0$  ならば、その  $\alpha$  の値で  $\sigma$  は最大。

$d^2\sigma/d\alpha^2 > 0$  ならば、その  $\alpha$  の値で  $\sigma$  は最小。

この場合にも、 $\sigma_x$  と  $\sigma_y$  との大小関係及び  $\tau_{xy}$  の正負によつて、 $\sigma$  が最大及び最小となる角  $\alpha$  の範囲を求めておけば便利である。

$0^\circ < \alpha \leq 90^\circ$  の範囲内の  $\alpha$  の値で、最大か最小かの主

軸は必ず1つだけ存在するから、このときの主応力が最大または最小となる条件を求めればよい。

$$(I) \sigma_x > \sigma_y, \tau_{xy} \geq 0$$

$$\tan 2\alpha = 2\tau_{xy}/(\sigma_y - \sigma_x) \leq 0 \therefore 45^\circ < \alpha \leq 90^\circ$$

$$\cos 2\alpha < 0, \sigma_x - \sigma_y > 0 \therefore d^2\sigma/d\alpha^2 < 0, \sigma \text{ は最大。}$$

$$(II) \sigma_x < \sigma_y, \tau_{xy} > 0$$

$$\tan 2\alpha > 0 \therefore 0^\circ < \alpha < 45^\circ$$

$$\cos 2\alpha > 0, \sigma_x - \sigma_y > 0 \therefore d^2\sigma/d\alpha^2 > 0, \sigma \text{ は最小。}$$

$$(III) \sigma_x < \sigma_y, \tau_{xy} > 0$$

$$\tan 2\alpha > 0 \therefore 0^\circ < \alpha < 45^\circ$$

$$\cos 2\alpha > 0, \sigma_x - \sigma_y < 0 \therefore d^2\sigma/d\alpha^2 < 0, \sigma \text{ は最大。}$$

$$(IV) \sigma_x < \sigma_y, \tau_{xy} \leq 0$$

$$\tan 2\alpha \leq 0 \therefore 45^\circ < \alpha \leq 90^\circ$$

$$\cos 2\alpha < 0, \sigma_x - \sigma_y < 0 \therefore d^2\sigma/d\alpha^2 > 0, \sigma \text{ は最小。}$$

$$(V) \sigma_x = \sigma_y, \tau_{xy} \neq 0$$

$$d\sigma/d\alpha = 2\tau_{xy} \cos 2\alpha = 0 \text{ より, } \alpha = 45^\circ$$

$$d^2\sigma/d\alpha^2 = -4\tau_{xy} \sin 2\alpha = -4\tau_{xy}$$

$\tau_{xy} > 0$  ならば、 $d^2\sigma/d\alpha^2 < 0$ 、ゆえに、 $\sigma$  は最大。

$\tau_{xy} < 0$  ならば、 $d^2\sigma/d\alpha^2 > 0$ 、ゆえに、 $\sigma$  は最小。

次に、剪断応力  $\tau$  の最大及び最小となる平面の傾斜角は、

$$d\tau/d\alpha = (\sigma_x - \sigma_y) \cos 2\alpha - 2\tau_{xy} \sin 2\alpha = 0$$

より、 $\tan 2\alpha = (\sigma_x - \sigma_y)/2\tau_{xy}$  をうる。また、

$$\begin{aligned} d^2\tau/d\alpha^2 &= -2(\sigma_x - \sigma_y) \sin 2\alpha - 4\tau_{xy} \cos 2\alpha \\ &= -\{(\sigma_x - \sigma_y)^2 + \tau_{xy}^2\} \cos 2\alpha / \tau_{xy} \end{aligned}$$

主応力の場合と同じように、 $0^\circ < \alpha \leq 90^\circ$  の範囲において、主剪断応力が最大または最小となる条件を求めれば、次のようになる。

$$(I) \sigma_x > \sigma_y, \tau_{xy} > 0$$

$$\tan 2\alpha = (\sigma_x - \sigma_y)/2\tau_{xy} > 0 \therefore 0^\circ < \alpha < 45^\circ$$

$$\cos 2\alpha > 0, \tau_{xy} > 0 \therefore d^2\tau/d\alpha^2 < 0, \tau \text{ は最大。}$$

$$(II) \sigma_x \geq \sigma_y, \tau_{xy} < 0$$

$$\tan 2\alpha \leq 0 \therefore 45^\circ < \alpha \leq 90^\circ$$

$$\cos 2\alpha < 0, \tau_{xy} < 0 \therefore d^2\tau/d\alpha^2 < 0, \tau \text{ は最大。}$$

$$(III) \sigma_x \leq \sigma_y, \tau_{xy} > 0$$

$$\tan 2\alpha \leq 0 \therefore 45^\circ < \alpha \leq 90^\circ$$

$$\cos 2\alpha < 0, \tau_{xy} > 0 \therefore d^2\tau/d\alpha^2 > 0, \tau \text{ は最小。}$$

$$(IV) \sigma_x < \sigma_y, \tau_{xy} < 0$$

$$\tan 2\alpha > 0 \therefore 0^\circ < \alpha < 45^\circ$$

$$\cos 2\alpha > 0, \tau_{xy} < 0 \therefore d^2\tau/d\alpha^2 > 0, \tau \text{ は最小。}$$

$$(V) \sigma_x \neq \sigma_y, \tau_{xy} = 0$$

$$d\tau/d\alpha = (\sigma_x - \sigma_y) \cos 2\alpha = 0 \text{ より, } \alpha = 45^\circ$$

$$d^2\tau/d\alpha^2 = -2(\sigma_x - \sigma_y) \sin 2\alpha = -2(\sigma_x - \sigma_y)$$

$\sigma_x > \sigma_y$  ならば、 $d^2\tau/d\alpha^2 < 0$ 、ゆえに、 $\tau$  は最大。

$\sigma_x < \sigma_y$  ならば、 $d^2\tau/d\alpha^2 > 0$ 、ゆえに、 $\tau$  は最小。

以上の結果をまとめたものが表-2 である。ここで、

$\sigma_1, \sigma_2$  はそれぞれ最大及び最小主応力,  $\tau_1, \tau_2$  はそれぞれ最大及び最小主剪断応力を表わし,

$$\sigma_1 = \{\sigma_x + \sigma_y + \sqrt{(\sigma_x - \sigma_y)^2 + 4\tau_{xy}^2}\} / 2$$

$$\sigma_2 = \{\sigma_x + \sigma_y - \sqrt{(\sigma_x - \sigma_y)^2 + 4\tau_{xy}^2}\} / 2$$

$$\tau_1 = \sqrt{(\sigma_x - \sigma_y)^2 + 4\tau_{xy}^2} / 2$$

$$\tau_2 = -\sqrt{(\sigma_x - \sigma_y)^2 + 4\tau_{xy}^2} / 2$$

また,  $\alpha_1, \alpha_2$  はそれぞれ最大及び最小主応力面の傾斜角,  $\beta_1, \beta_2$  はそれぞれ最大及び最小主剪断応力面の傾斜角であり, 表-3 は, 主応力の絶対値の大小関係を示すものである。

表-2

条 件	主 応 力 面		主 剪 断 応 力 面	
	$\sigma_1$ 面	$\sigma_2$ 面	$\tau_1$ 面	$\tau_2$ 面
$\sigma_x > \sigma_y, \tau_{xy} \geq 0$	$45^\circ < \alpha_1 \leq 90^\circ$	$-45^\circ < \alpha_2 \leq 0^\circ$	$0^\circ < \beta_1 \leq 45^\circ$	$-90^\circ < \beta_2 \leq -45^\circ$
$\sigma_x \geq \sigma_y, \tau_{xy} < 0$	$-90^\circ < \alpha_1 \leq -45^\circ$	$0^\circ < \alpha_2 \leq 45^\circ$	$45^\circ < \beta_1 \leq 90^\circ$	$-45^\circ < \beta_2 \leq 0^\circ$
$\sigma_x \leq \sigma_y, \tau_{xy} > 0$	$0^\circ < \alpha_1 \leq 45^\circ$	$-90^\circ < \alpha_2 \leq -45^\circ$	$-45^\circ < \beta_1 \leq 0^\circ$	$45^\circ < \beta_2 \leq 90^\circ$
$\sigma_x < \sigma_y, \tau_{xy} \leq 0$	$-45^\circ < \alpha_1 \leq 0^\circ$	$45^\circ < \alpha_2 \leq 90^\circ$	$-90^\circ < \beta_1 \leq -45^\circ$	$0^\circ < \beta_2 \leq 45^\circ$

表-3

条 件	主応力間の大小	備 考
$\sigma_x + \sigma_y \geq 0$	$ \sigma_1  \geq  \sigma_2 $	$\sigma_x \sigma_y > \tau_{xy}^2$ のとき, $\sigma_2 > 0$
$\sigma_x + \sigma_y < 0$	$ \sigma_1  <  \sigma_2 $	$\sigma_x \sigma_y > \tau_{xy}^2$ " $\sigma_1 < 0$

[注意]

- (1) 表中の等号は, 同行のものを同時にとる。
- (2)  $\sigma_1$  は引張応力 ( $\sigma_1 > 0$ ),  $\sigma_2$  は圧縮応力 ( $\sigma_2 < 0$ ) とし, 表-3 の備考にかかげられた条件のときのみ, その符号が反対になる。
- (3)  $\sigma_x = \sigma_y, \tau_{xy} = 0$  の場合は, 明らかに  $\sigma_1 = \sigma_2 = \sigma_x = \sigma_y, \tau = 0$  となるから, 表には省略してある。
- (4) 表-3 は,  $\tau_{xy} = 0$  の場合にも用いられる。このとき, 備考欄は  $\sigma_x \sigma_y > 0$  となる。

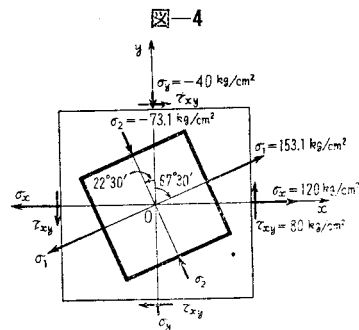
例題 2  $\sigma_x = 120 \text{ kg/cm}^2, \sigma_y = -40 \text{ kg/cm}^2, \tau_{xy} = 80 \text{ kg/cm}^2$  が作用するとき, 主応力, 主剪断応力及び, 主応力面, 主剪断応力面の傾斜角を求めよ。

[解]  $\tan 2\alpha = 2 \times 80 / (-40 - 120) = -1$

$$\therefore 2\alpha = 135^\circ, -45^\circ \quad \therefore \alpha = 67^\circ 30', -22^\circ 30'$$

さて,  $\sigma_x > \sigma_y, \tau_{xy} > 0$  であるから, 表-2 より,

$$45^\circ < \alpha_1 < 90^\circ, -45^\circ < \alpha_2 < 0^\circ, 0^\circ < \beta_1 < 45^\circ,$$



$$-90^\circ < \beta_2 < 45^\circ$$

$$\therefore \alpha_1 = 67^\circ 30' (\sigma_1 = 153.1 \text{ kg/cm}^2)$$

$$\sigma_2 = -22^\circ 30' (\sigma_2 = -73.1 \text{ kg/cm}^2)$$

$$\beta_1 = 67^\circ 30' - 45^\circ = 22^\circ 30' (\tau_1 = 113.1 \text{ kg/cm}^2)$$

$$\beta_2 = -22^\circ 30' - 45^\circ$$

$$= -67^\circ 30' (\tau_2 = -113.1 \text{ kg/cm}^2)$$

図-4 には, 主応力面のみを示す。 $\alpha_1, \alpha_2$  はそれぞれ最大及び最小主応力の方向が y 軸となす角 (正ならば右回り, 負ならば左回り) に等しい。

### 技術ノート欄について

現場でこんな方法をとつたらうまくいったとか, こんな方法で実験したらいい結果がえられたとか, 現場の人や研究する人に役に立つと思われる記事を, 気楽に紹介する欄をもうけております。

この欄を, 会員の実際に役立つ欄とするために, そして会誌に一層したしみのもてるようにするために, 会員諸氏が十分活用して下さいをお願いします。

(編集 部)